

大本山永平寺東京別院

平成31年1月第3週放送

東京都港区の首都高速3号渋谷線側、南青山と西麻布の間に大本山永平寺東京別院、^{ちょうこくじ}長谷寺があります。現在、周辺には、企業の本社ビルや商業施設、美術館が立ち並び、まさに都心の真ん中です。

かつて、この地は「渋谷が原」と呼ばれ、古くから観音堂が建ち、^{はせでら}奈良の長谷寺の観音様と同じ木で造られたと言い伝えられる小さな観音さまが^{まつ}祀られ、人々に親しまれていました。

時が流れて徳川家康公開府の後、この観音堂を基に^{ほ ださんちょうこくじ}補陀山長谷寺が開かれました。家康公の幼馴染みでもあった高僧、門庵宗関大和尚（もんなんそうかんだいおしょう）を御開山に二万坪余りの寺領を^{じりょう}賜ったと伝えられます。また、^{しょうとく}正徳六年（一七一六年）二丈六尺、約八メートルの大観音像が建立されます。それまでの仏様は^{そんぞう}新たな尊像の体内にお納めし、江戸屈指の観音霊場・江戸観音霊場第二十二番札所として信仰を集めてきました。

近年、戦禍で大観音は焼失されましたが、再建を願う人々の根強い信仰により、昭和五十二年（一九七七年）に高さ三丈三尺、約十メートルの荘厳な御姿がよみがえりました。現在でも、観音堂では、毎月十八日に例祭が行われ、近隣はもとより、遠方からも多くの人々が集まり、ご祈禱の法要が営まれています。

また、^{ちょうこくじ}長谷寺は大本山永平寺の東京別院として僧侶を養成する専門僧堂、つまり修行道場でもあります。かつては、^{ちょうこくじ}長谷寺に修行しながら、曹洞宗の駒澤短期大学に通学する者も多く、朝の坐禅から夕方まで^{ちょうこくじ}長谷寺で修行をし、夜間は学校に通い、修行と学問を両立する僧侶もおりました。現在は修行僧が三十名前後と、決して人数は多くありませんが、修行道場であるとともに、多くの檀信徒を擁する寺として修行と法要を通じて、地域に溶け込んでいます。

都心の真ん中にありながらも、一步山門をくぐり、境内に入れば、周囲の喧騒がピタリと止みます。それは、修行道場としての緊張感が^{もたら}齎すものなのかもしれません。この都内の静寂の禅林、大本山永平寺東京別院、^{ちょうこくじ}長谷寺では、毎週月曜日の夜間には、参禅会が開かれてい

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

ます。参禅会では、初めて坐禅に取り組む方に向けたプログラムも用意されております。

お勤め先の近い方、修行僧とともに夜に坐禅をし、週の始まりの仕事帰りに心と体を^{ととの}調える体験をされてみてはいかがでしょうか。

— 終 —